『斎藤文庫』の紹介

平成２９年５月

山形県山岳連盟顧問
日本山岳文化学会会員
清　野　　孝

『斎藤一男』さんとのかかわり

斎藤さんは、公益社団法人『東京都山岳連盟』・『日本山岳協会』・及び『日本山岳文化学会』など山岳団体の会長をはじめ、社会人山岳団体『山学同志会』代表を務められる等、多くの著名な登山家を育てられ、自身の著書には『日本のアルピニズム』、『山の文化とともに』、『日本の岳人たち』等多くの著書を出版している山岳文化人である。

私は以前から、ハインリッヒハラーの『白い蜘蛛』・小西政継の『マッターホルン北壁』・北　杜夫の『白きたおやかな峰』等、山岳雑誌に興味があり、その中でも日本人が海外の山々で活躍する姿、特に『山学同志会』という社会人山岳団体が活動する本から多くの感動を受けていた時代がある、その会の代表が斎藤一男という人であることが印象に残っていた。

時が経過し、機会があって日本山岳協会国体常任委員会のメンバーに就任、国民体育大会山岳競技会が、昭和５８年（１９８３年）群馬県で開催され、ここで斎藤さんにお会いしたのが始めである。　以降平成元年（１９８９年）の北海道国体では副審判長として任に当たった私らに指導と激励をいただく等、
重ねて、平成４年（１９９２年）山形県で開催された第４７回べにばな国体では競技会会長として大会運営を指揮され大成功に導かれた実績を持つ。

現在は、国体山岳競技会をとおして集った仲間達が全国に広がり、皆さんとのお付き合いも長くなり、山岳競技会を離れても様々な機会を得て、夫婦共々お付き合いさせていただいている。　この仲間達は斎藤一家と呼ばれ一家の旗頭が斎藤一男さんである、年に数回東北や関東を中心に交流会がもたれその絆をより一層深化させている現状である。

『斎藤文庫』とは

平成２７年５月山形県米沢市で開催された、上杉神社春恒例の時代祭『上杉まつり』の川中島合戦をぜひ見たいとのご希望で斎藤さんご夫妻が米沢に見えられた。　置賜の５月は雪どけが進み、桜が満開となり、遠く青空に映える飯豊や吾妻、朝日の姿が美しい時期である。

ご夫妻そろって自宅でお茶を飲まれながら、若い時の登山の話や山の本の話題、自宅の山の本の話等から、以前米沢市『伝国の森』で開催された『山岳文化学会』地方講演会のおり、学会会員の方の講演で地元に暮らす私達が知らなかった登山記録が紹介された。そのことを話したところ、『清野君は山の本が好きか？』との会話から自宅に帰ったら少し送るよと言われ楽しみに待っていた。

６月に入り段ボール箱にぎっしり詰められた書籍が届いた、その本は地元飯豊山の登山の歴史記録や、吾妻のスキーツアー、蔵王の山スキーの本などを主に、地方に住む私らでは到底手に入る書籍ではなく、貴重な書物が月に２回から３回のペースで届くようになった。

最初は書棚一棚位と思っていたが、途切れることなくさまざまな書物が届き、３ヶ月が過ぎた頃本は３００冊を越えた。　この書籍はやはり『書誌・書目』を記録して残すべきと考えその作業に取り組んだ。　斎藤さんから届く本を『斎藤文庫』として呼ぶことをお許し願い、記録を保存し県内の登山史や登山に係る記録を整理活用しようとして２年の時間をかけて作成した。

その一部を斎藤さんに送って見てもらいながら作業は続いたが、今年の平成２９年２月（２０１７年）斎藤さんは逝去された。ご家族がそのご遺志を継がれ更に送られてきてその数３，０００冊近くになっている本を山岳関係書籍として整理し、併せて自分の蔵書も含め公開しようとしたのが『斎藤文庫』である。

『斎藤文庫』の書物の内容は

斎藤さんから送られた本の種類は、戦前の月刊誌、各大学山岳部の部報、各社会人山岳会の部報、日本山岳会の会報、戦時中の山岳小説、月刊誌、そして戦後の山岳雑誌、社会人山岳会の記録報告、会報、更に斎藤さん自身の執筆に必要であった江戸時代の旅行案内や古書、現代の作家活動に活用された書籍である。東京を中心として戦前現存した書籍は戦争で消滅した物が多く現存する書籍や写真は貴重品であり、ご自身で集められた『国土地理院の地形図』等未整理なものもあり今後整理を進めながら公開していく予定である。

『斎藤文庫』の『書誌・書目』の内容は

送られた本の整理は、全ての本に目を通し東北、山形、置賜、地元の山にまつわる記事、時代の経過で大きな登山記事等を拾い上げ付箋化し、自分なりの分類で書誌・書目を記録した。今後本県登山の歴史や登山に関する人たち、山岳文化を研究する上で活用できるような資料となるよう整理した。

『斎藤文庫』の分類種類と数について

平成２７年６月から送られた書籍は自宅に到着した順番に開封整理したので分類、番号等は整っていない。整理した書籍の数は以下の通りである。

『斎藤文庫第一部編』
　登山歴史や、日本山岳会会報『山岳』、文庫本など　　３２５部

『斎藤文庫第二部編』
　近代登山に移行する時代の名作本など　　１４２部

『斎藤文庫第三部編』
　社会人山岳会、会報、紀行文、山岳文学本など　　３６５部

『斎藤文庫第四部編』
　大学山岳部、部報、古書（日本地誌）、山岳展望など　　３９０部

『斎藤文庫第五部編』
　日本山岳会会報、古書、山岳文庫本など　　２４０部

『山と渓谷編』
　山と渓谷発刊から現代までなど　　１８４部

『岳　人』
　岳人発刊号から現代までなど　　１９０部

『岩と雪』
　岩と雪発刊から廃本までなど　　１５７部

『山小屋』　　１６０部

『ハイキング』　１１６部

『山と高原』　９３部

『山・関西山小屋』　５９部

『山とスキー』　５６部

『アルプ』　４１部

『登山とスキー』　１０６部

『わらじ』　４１部

『山書研究』　２６部

『ケルン』　１２部

『洋書・鉄道』　５５部

総　　計　２，７５８部

等となっており自宅において随時不定期に公開している。

『参考資料』

第一部編記載事項（書籍の内容）

『越後山岳創刊号』昭和２３年　２月　日本山岳会越後支部発刊

『越後山岳第弐号』昭和２３年　９月　〃

以下４．５号

『登山とスキー第７号』　昭和１８年１２月　新潟鐵工所産業報国會協力會厚生部登山とスキー部発刊・以下８号

『山岳第十五年第一号』　大正９年８月　日本山岳会高頭仁兵衛発刊

『山岳第十六年第一号』　大正１０年７月　〃

『山岳第二十二年第一号』　昭和２年１０月　〃

以下二十二年第二号・第３号

二十三年第一号から第四十四年第二号　日本山岳会発刊

『扇頭小景』明治３２年５月　小島久太発刊

『袖珍武鑑』文政１１年　　須原屋茂平衛発刊
『エベレスト登頂』昭和２９年５月　ジョンハント著書
『黒部谿谷』昭和３年７月　冠　松次郎著書
『わが山々』昭和９年１２月　深田久弥著書
『日本岳連史』昭和５７年１１月　髙橋定昌著書
『世界山岳名著全集』１から　昭和４２年　吉沢一郎他著書
『マナスル登頂記』昭和３１年８月　槇　有恒著書
『羽陽山岳』昭和６年６月　安齋　徹他著書
大島亮吉・木暮理太郎著書他記載

第二部編記載事項（書籍の内容）
『大島亮吉全集第一巻』他　昭和４５年２月　大島亮吉著書
『山岳』第二十七年第二号　昭和７年９月　日本山岳会発刊
『奥羽の名山』　昭和１５年６月　三田尾松太郎著書
『岳』昭和１８年８月　川崎隆章著書
『本の手帳』昭和４３年１０月　森谷　　均著書
『羽黒山、月山、湯殿山、三山略縁起』明治３３年５月　宮下正勝著書

第三部編記載事項（書籍の内容）
『山岳展望』創刊号から１７号　昭和３８年１０月　山岳展望の会
『北海道の山』１号～昭和３４年７月　　清水一行著書
『ＪＣＣ・紫岳・登攀・白稜・磁石・らんたん・獨標登高会報・鵬翔』
『岳人』

第四部編記載事項（書籍の内容）
『日本地誌略』明治７年８月
『日本地誌要略』巻の一～　明治８年１０月　　大規修二著書　他
『地形論』巻の二～　明治１２年３月
『和漢三才図会』第五十五～第九十二　正徳２年
『和繭雅目録』巻の一～巻の八　元禄戊辰
『登髙行』第一年第一号　大正８年７月　慶應大学山岳部
『登髙行』第二年・第三年・第四年・第五年１７号まで大正９年６月　〃
『針葉樹』第二号～第１２号　大正１５年１２月　一橋商業学校
『尾根伝い』第一号～　大正１５年１１月　青山学院大学山岳部
『報告』第一号～　　不　　明　　京都大学山岳部
『炉辺』第四号～　　昭和２年１２月　　明治大学山岳部

『リュックサック』創刊号～　大正１１年６月　早稲田大学山岳部
『東京慈恵医大・立教大学・関西学生山岳・三高山岳部・北大・松本
『法政大学・第四高等学校・大阪商大・甲南・東京医科・東京帝大
仙台・日本医科大学・東北大学・山形大学山岳部他』

第五部編記載事項（書籍の内容）

『山岳講座』第６巻他　昭和１１年４月　南條初五郎
『山の文学全集』昭和４９年７月　深田久弥著書
『山岳講座』第１号～昭和２９年５月　川崎隆章他著書
『処女峰アンアプルナ』昭和２８年７月　近藤　等訳
『登山講座』第一巻他　昭和１７年７月　川崎隆章著書
『ＯＡＣ会報』１号～　昭和３４年４月　大阪山の会発刊
『雪艇弥榮』昭和１１年２月　立上秀二著書

『山と渓谷』編記載事項

『山と渓谷』第一号　創刊号　昭和５年５月　山と渓谷社発刊
現在まで発刊、日本の登山史上最も長く発刊されている山岳雑誌
１８４冊３１７号まで。

『岩と雪』編記載事項

『岩と雪』第１号　昭和３３年７月山と渓谷社から発刊、平成６年４月
通算１６９号で休刊となった。

『岳　人』編記載事項

『岳人』第１号　昭和２２年５月から発刊、山と渓谷に次ぐ長期発刊誌。
２９１号まで斎藤文庫以下自宅文庫本

『山小屋』編記載事項

『山小屋』第一号　創刊号　昭和６年１１月　新島章男発刊
昭和６年１１月から朋文堂より発刊、１２５号で戦時中の為休刊
昭和２１年～復刊し１５９号から『山』に合本されている。

『山とスキー』編記載事項

『山とスキー』第一年荘目録以下　大正１０年から発刊された。
昭和５年８月１００号で廃刊。

『山・関西山小屋』編記載事項

『山・関西山小屋』昭和９年１月から梓書房から発刊、山は３９冊、関西山小屋は２０冊計５９冊

『ケルン』編記載事項

『ケルン』昭和８年６月第一号発刊、昭和１３年６月まで６０冊発刊

『登山とスキー』編記載事項

『登山とスキー』昭和７年７月から昭和１８年３月号まで９０冊発刊戦時中昭和１９年１月から６月まで６刊計９６冊現存

『山と高原』編記載事項

『山と高原』昭和１４年５月創刊号から昭和４０年４月号まで発刊されその後『ケルン』として２冊発刊され９３冊現存

『ハイキング』編記載事項

『ケルン』昭和７年４月第一巻から昭和１８年１月まで発刊、戦後昭和２５年５月『新ハイキング』として発刊、昭和３０年『ハイカー』として昭和３５年９月まで１１６部現存

『アルプ』編記載事項

『アルプ』昭和３３年３月創刊号として発刊、昭和５５年１２月まで４１部現存

『山書研究』編記載事項

『山書研究』昭和３８年３月創刊号発刊。昭和５７年３月２６部現存

『わらじ』編記載事項

『わらじ』昭和３３年から発刊『わらじの仲間』の機関誌４１部現存

以上簡単に記載内容を要約。